



請願第8号

2025年4月4日

小山田小・中学校の存続を求める請願

町田市教育委員会教育長 様

住 所
連絡先
氏 名

(請願の要旨)

町田市の令和7年度予算概要説明書によると、小山田小学校は2026年度に基本計画検討着手と計画変更しています。

また、「小山田小学校の廃校時期見直しの議論を求める請願（2023年8月29日受理）が町田市議会定例会において採択され、『小山田地区統合新設小学校の設置時期については、今後、関係部署及び地域の方々等と意見交換を重ねてまいります。』と結果報告がありました。にもかかわらず十分意見交換を重ねたのでしょうか？意見交換の内容を地域に知らせているのでしょうか？

小山田地区は広く、地域で必要とした歴史ある学校です。ぜひ小山田小学校・小山田中学校の統廃合計画を見直し、小山田小学校・小山田中学校を存続させてください。

(請願の理由)

統廃合により小山田小学校、小山田中学校が無くなると、子どもたちに大きな負担がかかるということです。そこで私たちの会では実際に自分たちの足で歩いてみました。小山田南小学校に通学する時間は、多摩丘陵病院付近からは64分、大妻女子大学からは55分、南多摩斎場付近からは50分かかりました。大人の足ですから子どもの足ではもっとかかることになります。

学童クラブも遠くなり、保護者が迎えに行くことになります。保護者にも大きな負担がかかります。

また、小山田中学校が無くなり忠生中学校まで通学するには、多摩丘陵病院付近から約5kmで大人の足で64分、中学生(60m/分)の足では1時間23分かかります(裏門まで)。バス路線也没有。

小山田小学校は都内では数少ない里山に囲まれた特別な環境にあり、この地を生かした教育が続けられてきている学校だという点です。稲、田んぼの学習経験、竹ずみを作り、どんぐりの苗木の植樹など、NHKのBS番組でも取り上げられました。

また、文科省は公立小学校の学級編成について2021年度から5年かけて35人に引

き下げると発表しました。今ある学校を存続させて少人数学級を実現し、どの子も一人ひとりが大事にされる教育が行われるよう環境整備すべきです。

小山田中学校の在校生は、将来廃校になることに賛成なのか意見を聞いてみようと、校門前でシール投票を2回してみました。廃校反対284人、賛成32人で圧倒的に小山田中を残しての声でした。

緑豊かな環境に加えて、保育園から中学校までであることから、子育てをするのにうってつけの所と考え小山田桜台に住むことを選んでいると思います。中学校がこの地域から無くなってしまうと、子育て世代にとって魅力のない地域になってしまいます。

学校から巣立った多くの卒業生にとっても、心のふるさとが無くなってしまうことになります。

気候の温暖化による台風の巨大化、熱中症の増加、巨大地震など災害が発生した場合、学校は住民にとってなくてはならない防災拠点です。体育館のクーラー設置、校舎の耐震化が進められてきました。住民の命にかかわる大事な学校です。

体育館や校庭を使用してのスポーツ活動などを通して、地域のコミュニティを育んで来ました。その学校が無くなる事は、コミュニティの場が喪失するということになります。

2019年8月町田市は「小山田桜台団地 まちづくり構想」を発表しています。小山田地区の整備方針では、センター地区や小学校・中学校など今後において、地域のコミュニティ形成を育んでいく地区として取り組んでいく方針をだしています。小山田中学校があることを前提に多様な世代が交流できる「公園団地」をめざして、子育て世代や若者世代の流入促進を図っていく政策になっています。小山田地区に中学校無しの計画は考えられません。

以上の点から小山田小学校、小山田中学校の統廃合計画を見直し、小山田小学校、小山田中学校を存続させていただきたくご検討をお願いします。